

「北陸デジタル田園都市国家インフラ整備推進協議会 第5回会合」を開催



会合は会場参加とオンライン参加のハイブリッドにより開催

【議事】

- 1 5G等のインフラ整備のマッチング案件についての進捗報告
- 2 通信事業者の能登半島地震の対応状況、今後の取り組み
- 3 各県からの発表
 - ・能登半島地震への対応
(石川県創造的復興プラン、情報通信インフラの強靱化に向けた検討等)
 - ・各県からの国・通信事業者等への要望等
- 4 デジタルインフラによる地域課題解決について
- 5 「FTTHの民設移行に向けた勉強会」開催について

北陸デジタル田園都市国家インフラ整備推進協議会（以下「協議会」）は、令和6年6月26日（水）、北陸総合通信局会議室及びオンラインのハイブリッド方式により、第5回会合を開催しました。

会合では、冒頭、菱田北陸総合通信局長より、能登半島地震の被害について通信・放送の復旧が進んでいることへの感謝と通信及びネットワークの強靱化の重要性に触れた挨拶がありました。



菱田局長の挨拶

議事では、事務局より、インフラ整備のマッチング案件の進捗について、福井県の冠山峠道路と在来線北陸トンネルの携帯電話不感対策の対応状況を説明し、福井県からは、冠山峠道路における不感地域の確実かつ早期の解消の要望が述べられました。

次に、能登半島地震の対応状況及び今後の取り組みについて、NTTドコモ、KDDI、ソフトバンク、楽天モバイル、NTT西日本及び日本ケーブルテレビ連盟北陸支部より報告があり、石川県の「創造的復興」に向けたインフラ整備に関し、県及び市町と連携して対応を進めていくことが述べられました。

これを受けた意見交換では、「通信・放送のインフラの早急な復旧は、日頃の通信・放送事業者の災害対応訓練の成果であり、今回の対応で得た経験を今後活かしていきたい」との意見が出されました。

石川県からは、「創造的復興プラン」において、通信インフラやデジタル技術の活用とデジタルライフラインの構築に向けた検討状況、富山県からは、能登半島地震で明らかになった課題についての検証、福井県からは、県が開発した避難所運営システムを支援先の珠洲市へ提供した事例と災害対応の課題・国への要望がそれぞれ述べられました。

最後に、事務局から、デジタルインフラによる地域課題解決とFTTH民設移行に向けた勉強会の開催について提案し、北陸総合通信局が年内を目処に自治体向けに実施するデジタルインフラのニーズ調査の結果について協議会で共有することと、部会を設置し、「FTTHの民設移行に向けた勉強会」を実施することとしました。

本協議会は、デジタル田園都市国家構想の実現に向けて、引き続き5G等のインフラ整備のマッチングを行うとともに、デジタルインフラ整備を通じて地域課題を解決するため議論を深めていきます。